



ムラサキシヤチホコ [*Uropyia meticulodina*]

自然界で暮らす野生生物たちは、長きにわたる生存競争を生き残るため、天敵から身を隠す様々な術を身につけました。

さて写真の中には釧路湿原にも暮らす昆虫の一種が写っているのですが、皆さんは見つけられますでしょうか。

中央で丸まった枯葉のように見えるのがシャチホコガの仲間。その翅は丸まっているのではなく平面に描かれた模様。鱗粉と前胸の体毛により絶妙なグラデーションが入っており、まるで枯葉が丸まっているかのように見えるのです。これは正に自然界のトリックアートと言えるでしょう。



塘路フィールドノート【6/15～7/14】

【野鳥】

6月も後半になるとカッコウの仲間が勢揃いして、托卵（たくらん）先を探しているのか、その姿をよく見掛けるようになる。また宿主の小鳥に追い掛け回されて逃げ回っているカッコウ科の鳥もまた、よく見掛ける。



ツツドリ褐色型（塘路湖畔）

樹上で辺りの様子を伺い托卵を企んでいる？！褐色型は珍しい印象。カッコウ科



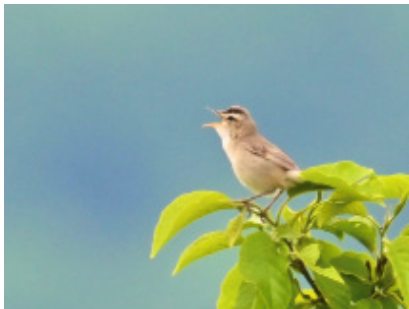
ジュウイチ（釧路湿原）

「ジュウイチ」と鳴く。カッコウの仲間の中では黒目勝ち。オオルリに托卵する。カッコウ科



センダイムシクイ（コッタロ湿原）

初夏の森で「チヨチヨビー」と囀る。エゾムシクイよりも好奇心が旺盛？ムシクイ科



コヨシキリ（サルルン沼周辺）

夏の湿原を代表する野鳥。ハンノキの枝先で複雑な囀りを披露していた。ヨシキリ科



ヤマセミ（釧路川）

川の倒木の枝から水中を泳ぐ獲物を探していた。カワセミより大きい。カワセミ科



ツバメ（塘路湖畔）

営巣期。足がかりが出来ず何度も失敗を繰り返し、遂に巣作りに成功した。ツバメ科

【植物・菌類】

6月末の観察会では例年マイヅルソウやバイケイソウが見頃ですが、今年はマイヅルソウの花が殆ど観察されなかった。バイケイソウも鹿害なのか花が無くなっているものも多く黄色く変色していました。菌類は順調？！



エゾシカシユリ（蝦夷透百合）

この季節に路肩で最も存在感が増す大きなユリの花。花言葉「清純」ユリ科



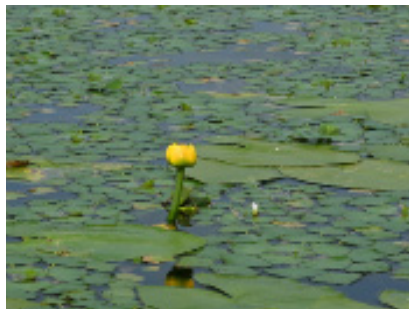
コケイラン（小恵蘭）

バイケイソウの根本で静かに黄色い花を咲かせていた。花言葉は「好奇心」ラン科



アヤメ（菖蒲）

これも存在感のある青い花を咲かせる。花言葉は「信じる者は救われる」アヤメ科



ネムロコウホネ（根室河骨）

ヒシやヒルムシロの中に大き目の浮水葉を開くことが多い。「真実の愛と誠実」スイレン科



ホザキシモツケ（穂咲下野）

夏の湿原を代表する花。中国の悲しい古事から、花言葉は「はかなさ、無益」バラ科



タモギタケ（楡木茸）

ハルニレの枯れ木や倒木に生える黄色いキノコ。独特の香りが癖になる。ヒラタケ科

【昆虫】

今年の夏は急速に気温が上昇した関係で、昆虫たちも全盛期が早くに終わった印象です。初めてヘイケボタルを確認したのが6月の下旬でした。例年7月上旬に発生するスジグロボタルは1つしか確認できませんでした。



ヒメウスバシロチョウ（釧路湿原）

和名にシロチョウとあるがアゲハチョウの仲間。食草はエゾエンゴサク。アゲハチョウ科



ミヤマセセリ（釧路湿原）

やや山地の林道に局地的に見掛けるチョウの仲間。素早く飛ぶ。セセリチョウ科



エゾハンミョウモドキ（塘路原野）

高層湿原で暮らすゴミムシの仲間。緑色の上翅に青い眼状紋が美しい。オサムシ科

◎新緑の展望台散策会

6月21日（土）は、初夏の展望台散策会を行いました。例年であれば見頃を迎えるバイケイソウやマイヅルソウの花が殆ど咲いていない状況の中、初夏を代表する野鳥であるセンダイムシクイやエゾムシクイの声を解説しながら登り始め、サルボチャシコツでは14世紀頃にその砦（高見台）がどのような目的で使われていたのかなどを解説。皆で当時を想像しました。

サルルン展望台では、子育てをするアカエリカイツブリを観察する予定でしたが、今年は繁殖が遅れているようで、抱卵の様子や巣作りの様子を皆で観察するに留まりました。巣材として使われるヒルムシロ類や絶滅危惧Ⅱ類のネムロコウホネの花を観察しながら、サルルントーの生態系について皆で学びました。下山途中には笹についた蛾の卵を観察したり今年の毛虫の多さにも触れ、また、現れた野鳥について詳細な解説が成されました。認種数11種 参加者15名



◎縄文時代の土器作りを体験しました

7月5日は標茶町博物館との共催行事として、縄文土器を作るイベントを開催しました。縄文時代の遺跡が豊富な塘路地域で縄文土器作り講座を開催しました。

冒頭、講師から塘路湖畔や茅沼の縄文遺跡の数が多く、模様や装飾に流行もあったという解説がなされました。実際に出土した土器を紹介しながら基本の手順を説明して土器づくりがスタート。前半は当時の土器の作り方に忠実な方法で円盤状の底を（土台）を作ってから、紐状の粘土を輪積みし、手で隙間をなくしていくやり方で形作っていました。

参加者は試行錯誤しながらも約1時間強でおよそ全体の形を作り上げ、後半は2重燃りのひもやホタテの貝殻などを使い、土器の表面に模様をつける作業。参加者はそれぞれの感性をフルに使って土器に模様を付けていきました。出来上がった土器は3週間ほどの自然乾燥を経て「野焼き」を経て完成となります。

参加者 15名



8月の自然ふれあい行事

事前の申込が必要です。

夏休み！ 森林について学ぼう

〔日 時〕 8月30日（土）10時～12時

〔定 員・参加料〕 15名 無料

〔開催場所〕 サルボ・サルルン展望台周辺

（集合場所はサルボ展望台 駐車場）

◎申込・問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

夏休み！植物をじっくり見てみよう

〔日 時〕 8月3日（日）10時～12時

〔定 員・参加料〕 15名 無料

〔開催場所〕 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンター
（0154-65-2323）まで

夏休み！ザリガニウォッチング

～ウチダザリガニ編～

〔日 時〕 8月17日（日）10時～12時

〔定 員・参加料〕 15名 無料

〔開催場所〕 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンターまで

◆日出・日入時間 7/15(3:55,19:00). 7/30(4:09,18:47).8/14(4:25,18:27)

～指導員のひとり言～

■釧路湿原の初夏があっという間に終わり、6月から7月の鮮やかな花の季節はと言えば、なんだか短かったような気がします。塘路湖ではエゾノミズタデのほか、エゾベニヒツジグサが咲き始めました。

関東では猛暑の報道が多くなってきましたね。涼しい釧路湿原でも気温 30℃を超える日が続いておりますので、皆さま、熱中症にはくれぐれもお気を付けください。

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あること

☎ 088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL：015-487-3003 FAX：015-487-3004

E-mail：emc@kushiro-shitsugen-np.jp

Instagram [torokoemc](https://www.instagram.com/torokoemc)

開館時間：10：00～17：00

（11～3月：16：00まで）

休館日：毎週水曜日 12月29日～1月3日

入館無料